

第251回くらしの植物苑観察会 令和2年2月22日(土)

中国と桃

上野 祥史(当館考古研究系准教授)

日本では、梅と桜とともに、春の訪れを伝えてくれる花の一つとして桃はなじみ深い。だが、梅や桜に比べれば、花を見る機会が少ないせいも、梅や桜ほどポピュラーではない気がする。一足早く春の訪れを告げる梅や、麗らかな春の陽気に咲き誇る桜と比べれば、印象が弱いのはやむを得ないのかもしれない。花の形を問われて、梅・桜はおぼろげにその姿を思い浮かべられても、桃が思い浮かぶ人は多くないだろう。梅や桜に比べて、花をモチーフ化したデザインも少ないように思う。それに、桃と言われて、桃の花を思い浮かべる人は少なく、桃の果実を思い浮かべる人が大半だろう。我々は、花より果実としての桃を意識することが多いのではないかと思う。

三月三日の桃の節句や、鬼退治する桃太郎のように、桃には神秘的な香りが漂っている。なぜ桃には神秘的な力があるのだろうか。なぜ、三月三日に桃なのだろうか。季節の花であれば、桃に限ることはない。陰暦の三月といえば、陽暦の四月にあたり、さまざまな花が咲き誇る時期である。そのなかで、桃が選ばれることには由来があるのだろう。中国の長い歴史のなかで、人々が桃とどのように接してきたのか、それを眺めることでこのことを考えてみたい。花としての桃と、果実・樹木としての桃がどのように記録されているのか、歳時記などを中心に、出土遺物を交えながらみてゆくことにしたい。

中国古代において、桃は「邪」なものを避ける植物として意識されていた。春秋戦国時代のことを記した『春秋左氏伝』や前漢時代に編まれた『淮南子』には、桃弧や桃梗など桃の木や枝を加工したものが、神秘的な力を発揮するさまを描いている。漢代の遺跡や墓では、桃人あるいは桃梗そのものが出土しており、その具体的な姿を知ることができる。

後漢時代には、年末の儺に桃梗を用いること、仲夏五月に桃印を用いて祓除をおこなうなどの記録がある。神話・伝承についても、『風俗通』に東方の果てに「大桃樹」なる大樹とその根元に侍する神荼・鬱壘のことを記録しているが、これが後世、正月に門神を飾る根源であるという。なお、後漢末の『四民月令』には、二月に桃の花を摘むべきことが挙げられており、他と少し違った桃がみえている。

中世に入っても、神秘の力をもつ桃は随所にみられた。東晋の陶淵明が著した『桃花源記』は、桃源郷の語源としてつとに著名であるが、異界・仙境が「桃花」の形容で表現されている。南北朝時代の年中行事を記した『荆楚歳時記』においても、正月に桃板を戸に貼ること、元旦の飲食物に屠蘇酒とともに桃湯を飲むことなどが挙げられている。正月だけでなく、三月上巳には桃花水で祓いをするとも伝える。西域文書や『四時纂要』に



は、正月や三月の他の季節にも桃を利用することが記されており、春に限ることなく神秘の力をもつ「桃」が生活のなかに存在していたらしい。

この時期のものとする『漢武帝内伝』では、前漢の武帝と西王母との対面において、仙界の主である西王母が武帝と仙桃をともに食する情景を描いている。古い神話・伝承では、西王母は不老不死の薬との結びつきが深い、ここでは「桃」を与えているのである。

近世の宋代以後にも、歳時記に桃は登場する。『夢梁録』では、桃の花を記した件はいくつかみえるものの、神秘の力を備えた「桃」の姿はみえない。『歳時広記』には、桃符や桃花の特異な利用が記されている。『西遊記』に登場する桃は、神秘の力をもつ「桃」を世間が広く受け入れていたことを物語る。玉帝より蟠桃園の番を命ぜられた斉天大聖孫悟空は、寿命を延ばす仙桃を食べ散らかし、西王母が蟠桃会を開くにあたって事が露見するという件に、西王母と神秘の桃の結びつけた、当時の人びとの意識が垣間見える。『西遊記』は、現行本では明代末に遡るが、宋代頃には原形が存在していたようである。

こうした流れは、清代の都市情景を伝える『燕京歳時記』にもみえている。同書の三月の条には、桃の節句のこと、西王母を祀る蟠桃宮で三月に廟会が催されたことを伝えている。その民間信仰は、解放後しばらくまで、北京の民謡にも歌われていたようである。

中国では、桃の花は楊の緑とともに春を体感する身近な植物である。一方で、神秘の力をもつ「桃」は、時代を越えてひとびとに引き継がれてきた。三月三日の節句は、三月上巳、清明節のことであり、もとをたどれば寒食を摂り火を更める節気であった。春が到来し陽気の高まる季節の祓除に、時節の花としての桃と神秘の力をもつ桃が重なったのではないか。来る三月三日、桃の花だけではなく、神秘の力をもつ「桃」に思いを馳せてみてはいかがだろうか。

写真：2015年4月9日の植物苑にて

.....

次回予告 第252回くらしの植物苑観察会 令和2年3月28日(土)

「地衣類って何？」原田 浩(千葉県立中央博物館 植物学研究科科長)

13:30~15:30(予定) 苑内休憩所集合 申込不要